

東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002 東京都国立市東1-4-20-102

TEL 042-577-6181 FAX 042-577-5574

2014年4月 (No.10)

今月の聖句

「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか」イエスは言われた。『心を尽くし精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい』金持ちが天国に入るのは難しい。律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。

マタイによる福音書22章36節—40節

主題

国際会長	Poul V. Thomsen	「全ての世界に出て行こう」
アジア地区会長	岡野 泰和	「未来を始めよう、今すぐに」
東日本区理事	渡辺 喜代美	「いざ立て」
あずさ部長	藤江 喜美子	「心を一つに あずさ部号前進」
武蔵野多摩会長	伊佐 節子	「健康第一！ちょっとだけ無理して頑張ろう！」

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

五つの誓い

1. 自分を愛するように隣人を愛そう
1. 青少年のためにYMCAにつくそう
1. 世界的視野を持って国際親善をはかろう
1. 義務を果たしてこそ権利が生ずることをさたろう
1. 出席第一と奉仕第一とを旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

1. 個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する。
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる。
5. 健全な交友関係を作り出す。
6. この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

12月出席率 在籍者11名 出席者10名 メネット1名 メイキャップ1 ゲスト1名 出席率91%

多摩いのちの電話発足当時の思い出

伊佐 節子

3月の卓話者に「いのちの電話」運営に関わっておられる、港区立芝浦アイランド・児童高齢者交流プラザ子ども園 館長の鶴 清忠氏をお招きしてお話を聞くことが出来た。

多摩いのちの電話は、来年30周年を迎えるとのこと、月日の経過の速さに驚きます。

多摩にも「いのちの電話」が必要だと、当時立川YMC Aの主事だった青年、鶴さんが立川YMC Aの働きとして関わりたいと熱心に取り組んでいました。

発足して間もない東京多摩クラブでも立川Yの働きをサポートする立場から、メンバーの太田さんが鶴さんを助けていました。

この若い鶴さんの言いだっしっぺが多摩いのちの電話発足に繋がったのです。

誰にも相談できず悩んでいる人、また苦しみ、自殺に追い込まれる人が大勢います。このような人が、電話で話すことにより、再び生きる勇気を見いだしていけるよう、良き隣人であることを願いながら「いのちの電話」は世界中のいたるところで活動しています。

日本でも1971年東京で「いのちの電話」が始まり、その後、全国50ヶ所での活動に広がりました。

「東京多摩いのちの電話」は1985年6月に開局、

無償のボランティア相談員が、年中無休で今までに30万件余の無料の電話相談を受け、活動しているとのことです。

相談員になるためには、2年間の養成講座で研鑽をかさねた後、認定を受けてから相談活動を始め、その後も継続的な研修を続けて「良き隣人」の働きの向上に努めるのです。

無償のボランティア相談員として、参加されているこれらの人々に驚異を覚えると共に、思わず脱帽してしまいます。

「良き隣人」になるは、言うは易く行うは難しです。

これらの相談事業は、「賛助会費」「寄付」を始め、バザーなど個人と企業・団体からの善意によって支えられています。

組織の運営には、年間約1,500万円が必要だとのことです。

発足して間もない頃、支援活動資金にと立川YMC Aでのバザー、柴崎中央公園での地域共催のバザー、等々で、交流を深めていたことを思い出します。

私たちが年をとりました。自分に出来る範囲のささやかな善意を「多摩いのちの電話」に向けましょう。

これからも「多摩いのちの電話」が「良き隣人」に引き継がれ、継続できることを祈ります。

3月武蔵野多摩クラブ例会のようす

日 時 3月12日(水曜) 19時 場 所 YMCA 西東京センター

受 付 山本 司 会 野尻 聖書・祈祷 山口の各ワイズ

ゲストスピーカー 多摩命の電話財務理事 鶴 清忠 氏

卓話「多摩いのちの電話」

チャーター間もない多摩クラブがある立川Yに二代目の主事として山手センターから移ることになりました。立川でなにをやるべきか模索中、当時飯田橋にあったいのちの電話の斉藤事務局長と二十代後半の私の出会いがありました。

氏の「多摩に二つ目のいのちの電話創設の計画がある」の言葉に強くひらめきました。

そしてYMCAと人脈の濃い宮崎幸雄さん、久山さんICUの星野さん、命の電話 財務委員長の太田さんと大勢の方々に紹介されました。

最初、太田さんからは「この世界は大変だよ、手を染めないほうが・・・」と助言を受けたほどでしたが、のめりこんでしまいました、そしてその後陰になり日向になりサポートをしてくださいました。

そういうことで武蔵野多摩クラブは「多摩いのちの電話」を生み出した所と思っており、本家帰りの気持ちで来ました。

いのちの電話はなぜ必要なのか考えあう時間をありがとうございます。

命の電話誕生の地はYMCAと同じロンドンです。

1953年、自分の教会の教会員が誰にも身内だと尚相談できずに自殺したことから、その牧師が起こした、相談者(コーラー)は名前を名乗らなくてよく、先ずプライバシーが守られた上で、いつでも、どこからでも、費用負担無し、一党一派

特定の宗教に捕らわれずに電話で相談ができるという運動です。

大きな特徴の一つがカウンセラーと対面では本音で話し合えるまでに長い時間がかかりますがそれがありません。

もう一つは傾聴と心に寄り添うことです。

日本では1971年に東京いのちの電話が誕生し現在は49団体が51箇所で開催を受けています。

多摩いのちの電話は1985年創立、365日相談を受けています。2011年には「認定NPO法人」となり税法上の優遇措置を受けられるまでになりました。

私達は、孤独と危機に直面し、助け、慰め、励ましを求めている人々の“良き隣人”となること願い、電話による相談活動を通して、その訴えには耳を傾け、その嘆きには共感し、その辛さに寄り添うことによって、生きる勇気と希望を取り戻す援助活動をすることを使命としています。

そのために相談員は二年間、心理学、精神医学、カウンセラー等々の研修を受け認定されて初めて受話器を執ります。

その基本は傾聴する、事柄ではなく心に寄り添う。法律とか労働とか経済等々答えを求められた場合には専門機関との連携もあり紹介しています。よりそうということは同情ではない、流れの中の頼りになる杭、つかまった人は一休みしたらまた自力で泳ぎだす自分を取り戻す場、単なるよいことだから自分もしようという気持ちでは心中沙汰を起こしかねないなど思った。

あくまでも訴えるコーラー自身が持つ生きる力を自らの中に見つけだす援助。本人は答えを持っていますその確認や発見に寄り添い引き出すことがいのちの電話の姿勢です。

交通事故の死亡（24時間以内）4400人 今回の震災では20000人以上 自殺は27000人（毎日75名）多摩いのちの3台の電話は受話器を置くとすぐ次のベルが鳴ります、200人の相談員が3～4時間交代でコーラーに寄り添っています、交代するとがっかり疲れている自分に気がつきます。相談員が受けるカウンセラー部門もあります。多摩いのちの電話運営費は年間1500万円です、理解者の厚意だけで成り立っています、相談員持ち出しの広報活動さえあります。職員の給与は都職員の最低賃金と同じです。どうぞ多摩いのちの電話に目を向け賛助会員になってください。個人会費は年間 3000円 5000円 10000円 50000万円 とあり 寄付金の金額は自由です、賛助会費、寄付金共に税制上の優遇措置があり4割が戻ってきます。

誕生の地ロンドンではサマリアンと言われTシャツのデザインになるほどポピュラーです。「いのちの電話におもい市民権を！」

「よくわかりました、よいお話ありがとうございました」ではすませない、鶴さんの古巣に向かっての叫びだった。

ワイズ像・思ったこと

ワイズメンは奉仕することに意義を、それも青少年に、とはっきりした目的をもって集っているのに、なぜ日本の縮図ながら高齢化と少数化の問題を抱えつつけているのか、魅力が無くなってしまったのか、社会基盤が戦時中の『非国民』から経済成長基盤の時代『それもう古いよ！』の価値観で黙殺されているのだろうか。

価値ある存在は人間の本能のひとつだ、黙殺、そんなはずが無い。魅力そのものが複雑怪奇になってしまった世相の中で、私たちの活動は人をひきつける魅力の影が薄らいで目立たなくなっているのではないか。

いつも目に浮かぶ光景がある、幾人もの人が共同で借りた菜園、全員理想の花畑造りの実現に励んでいる。収穫期、夫々に夫々のイメージの花畑は百花繚乱！そして花畑をよく見渡すと夫々のイメージがばらばらに咲き乱れて、いるがトータルの魅力が乏しい、なにを主張しているのかがいまひとつわからない。こんなはずではなかったと一人去り二人去り、・・・荒れ出す花畑。

理想は抽象的に表現されても、その実現のための行動は具体的でなければならない、具体的活動に共鳴する人々の集まりが理想的クラブの姿ではないか。良き時代はすでに終わり混沌とした時代の活動方法が「それもう古いよ！」と感ぜられるのではないか。

小人数クラブでの活動が非力でもあまってしまうとき、自分のクラブのことだけを考えるのではなく目を広げて少

なくとも両隣のクラブとコラボレーションしたらどうだろう！それもこちらから協力を持ちかけるのはどうだろう！

いま実行中の例、八王子にわたしがファンの、とても楽しいスイングやジャズもやる吹奏楽団がある。これが八王子クラブの地雷廃絶チャリティーコンサートのレギュラー出演になったら集客力は・・・メンバーに地雷廃絶を理解してもらったら・・・、ひいてはワイズメンバーに・・・夢はドンドン広がりついに両方にアイデアを持ちかけ、オケは招待状をクラブに送り、クラブは納得いくか演奏会に行く所まで来た。旨く行くかどうかはまだわからないが、数年後にイズのメンバーが増えていることを夢見て、とにかくやってみている。

松田 記

<西東京 YMCA 便り>

鳩山 徹郎

4月に入り、春の心地よい陽気を感じるようになりました。日本の美しさの一つに数えられるであろう「桜」。いつも当たり前のように眺めてしまっていますが、これだけの桜を見られる国はほとんどないでしょう。日本人であること、日本で暮らしていることを思い出す、そんな瞬間がこの季節にあります。JR 国立駅から谷保駅に向かう通り、一橋大学や桐朋大学が並ぶ通称「大学通り」も、東京の中でも有名な桜の名所です。お散歩が気持ち良いこの季節、ぜひ外にお出かけください。

3月は様々なプログラムを実施いたしました。宿泊を伴うスキーキャンプ、日帰りのデイキャンプ、知的障がいをお持ちの方々を対象としたスキーキャンプも行いました。幼児さんから中高生、障がい児者までたくさんのご参加をいただきました。一緒にキャンプ生活を送れたことをとても嬉しく思います。大学生を中心としたボランティアリーダーたちも活躍してくれました。1月の中旬から準備を少しずつ進め、キャンプの中で伝えていくテーマやプログラム内容などを話し合うだけではなく、机上での座学トレーニングやスキー場での実技トレーニングにも参加し、キャンプに備えました。楽しいだけではなく悩むことも多いキャンプですが、今後につながる実りのある時間になったかと思えます。

年度の切換えは人事異動の季節ですが、今期、西東京センターは人事異動なく、昨年のスタッフは全員今年も西東京センターにて働きのお場を与えられました。様々な場面でお誘いやお願いをさせていただくかと思えますが、神様の導きのもと、今年も歩みを共にしていきたいと願っております。どうぞよろしくお願いたします。

<西東京センター及び東京 YMCA の主な予定>

- 4/1 東京 YMCA 就業礼拝
 - 4/5 中高生グループ活動「TEENS」4月例会
 - 4/5-6 さくらフェスティバル
 - 4/10 チャリティゴルフ
 - 4/20 軽度発達障がい児 野外活動「Smile」4月例会
知的障がい児・者 余暇活動「あおぞら・つばさの会」4月例会
 - 4/21 会員部運営委員会
 - 4/27 幼児野外活動「にこにこ」4月例会
小学生野外活動「ロビンソン」4月例会
知的障がい児・者 余暇活動「シャベルズ・いずみの会」4月例会
- 4月のハッピーバースデー 宮内メネット 4・1 太田ワイズ 4・11
4月例会はさくら祭りと香港 TST クラブ特別例会参加です。